

## 教育と研究の狭間で考えるワークライフバランス

Thinking about Work-life balance through education and research

山口 恵 美 (やまぐち えみ)

関東学院大学 理工学部理工学科 土木学系 土木・都市防災コース 助手

### 1. 地盤工学に辿り着いたあゆみ

私は、実家が土木業を営んでいた影響で、小さいころから「土木」が生活の中に自然と存在する環境で育ちました。父が重機を運ぶ時に一緒にユニックに乗せてくれたり、車の中から現場を眺めていたりして、かっこいいと思いました。そのせいか私は、小学校高学年の頃には土木の道に進むことを夢見るようになっていました。しかしながら、中学の3年生で高校の体験入学をした時に、私は「環境システム科」に一目惚れしてしまいました。この学科は、自然環境・設備環境・住環境について学ぶところで、日本でも数少ない分野を学べるということもあり、たった1日で進路を変えてしまいました。

この学科はまだ新しく、私の代で5期生でした。高校3年間は専門的な事が学べたこともあり、非常に楽しく過ごしていました。資格もガス・アーク溶接、小型重機、管工事施工技術者、福祉住環境コーディネーター等多くの資格取得ができ、若いながらもスキルアップに励める環境にあったのでとても充実した3年間でした。そんな中、いよいよ次の進路を考えなくてはならない時、担任の先生が関東学院大学の社会環境システム学科(旧土木工学科、現土木・都市防災コース)への進学を進めて下さいました。そこは、日本で初めて土木系学科の女子クラスを作った所であり、土木の道を捨てきていないことを知っていた先生は、そこを進めてくださり、大学の進学など微塵にも考えていなかった私は、関東学院大学への進学を決めたのです。

そして、私の人生を大きく変える『液状化現象』との衝撃的な出会いを果たしました。授業で被害や動画を見た時、私は、なぜマンションが大きく傾いているのか？なぜマンホールが浮いているのか？ハテナが頭の中を駆け巡るとともに、液状化の研究をしたいと強く思ったのを今でも覚えています。そして、念願の地盤防災工学研究室に入ることができ、私の想像もしないような長い研究人生がスタートしました。

### 2. 私の仕事

私は今、大学の助手になって2年目の終わりに差しかかっています(この記事が掲載される頃は3年と3ヶ月になっています)。学生生活が9年間もあった私は未だに気分は学生ですが、そんな私でも時には教壇に立ち、

HP20

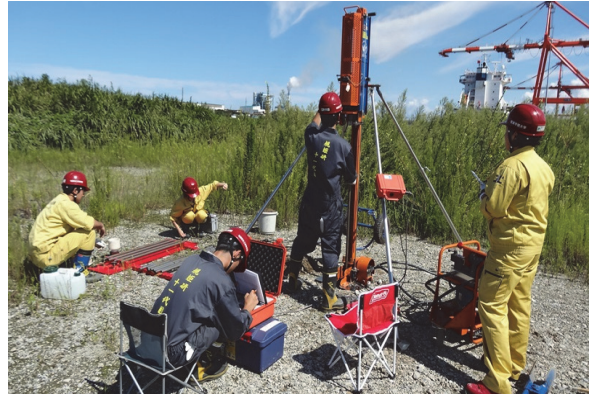


写真-1 地盤調査の様子



写真-2 恩師と研究室のみんな(右端が筆者)

時には学生と一緒に作業着を着て地盤調査(写真-1参照)へ行ったりと、忙しい日々を送っています。また、研究を共に行っている学生は皆頼もしく、遊びも研究も全力で楽しむという恩師の精神を受け継いで、学生と共に充実した研究生活を送っています(写真-2参照)。

### 3. 見本にならないワークライフバランス

大学の多くの先生方がそうだと思いますが、拘束時間は授業だけで、他の時間配分は自由です。ここでは私のとある平日と休日のタイムスケジュールを披露し、私のワークライフバランスについて紹介したいと思います。

#### 3.1 平日とある1日

平日とはいえ、時間の使い方は自由です。自分が担当している授業以外の時間は、学生と一緒に実験をや

地盤工学会誌, 63-7 (690)

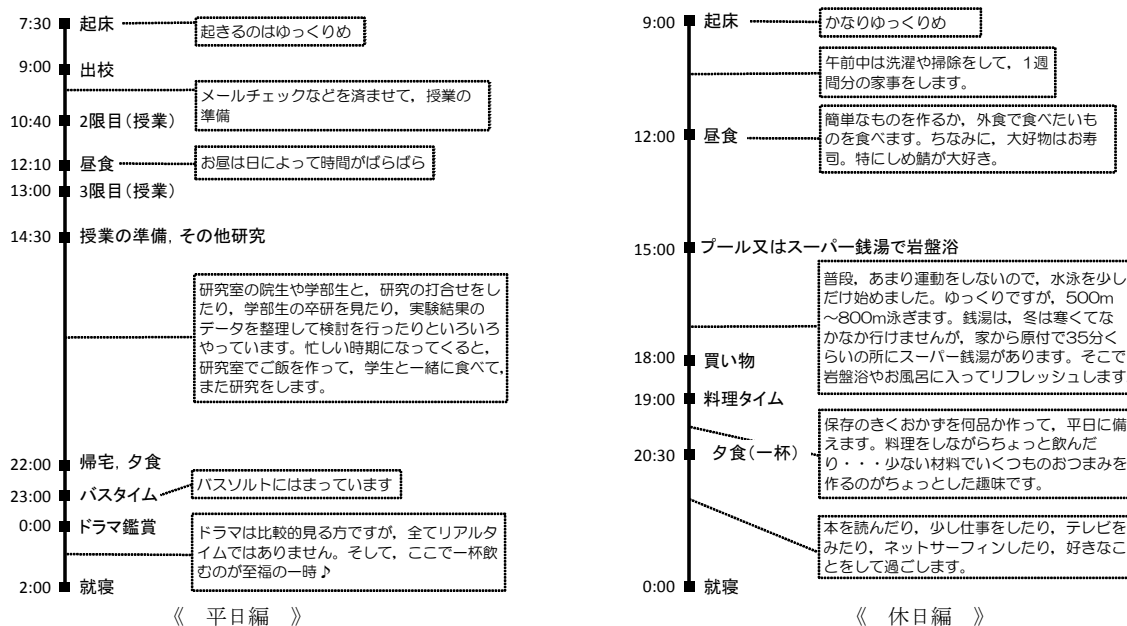


図-1 私の一番まともなタイムスケジュール

ったりします(図-1《平日編》参照)。昼夜関係なく自分や学生のペースで研究が進むため、あまり規則正しい生活を送ることが出来ていません。特に忙しい時、私は夜中の2時頃に帰ったり、23時頃に一度帰って、また学校に戻り、朝方数時間の仮眠をとることもあります。このような生活を披露してしまうと、この職業を目指す人が少なくなってしまうかもしれませんが、私自身はこの生活を楽しんでます。私は決して一人で研究しているのではなく、周りに学生がいるからやっていけるのです。研究はうまくいかないことも多いかもしれませんが、その過程を学生と一緒に考え、納得のいく結果が得られた時に喜びを共有できるからこそ、この生活が続けられているのかもしれない。

### 3.2 一番理想的な休日

私は、休日はリフレッシュするために、好きなことをしています(図-1《休日編》参照)。私は趣味が多く、特にストレス解消したい時は料理をします。昔からやっているのは、なるべく少ない材料で何種類もの料理(といってもほとんどがおつまみ系…)を作ることです。料理をしつつ、作業手順を構成し、ベストタイミングで全ての料理が完成するように考えるプロセスが意外と頭を使い、実験等にも活かしていると思います。

### 3.3 私のワークライフバランスはこれでいいのか？

私は今現在、時間を自由にコントロールできる反面、自由だからこそ見直さなければならない点が多くあります。今の生活に対して不満があるわけではなく、自分がそうしたいから、そうしているのです。しかし、もし将来的に結婚や出産・育児といった場面に差し掛かった時、これでは家庭崩壊もいいところです。だからといって、急にこの生活を変えることも出来ないと思います。今は思い切り自由に生活し、その時が来たらその時に考える。これが私のポリシーです。少しこの考え方はルーズかもしれませんが、このような女性も

いるのだということを学生に知ってもらい、おこがましいかもしれませんが、教育者、技術者のはしくれとして見本の一人でありたいと思っています。

## 4. 土木分野への女性進出について

私は、常々思っていることがあります。「なぜ女性の進出について数値目標を立てるのか…」働きたい女性が働きやすい環境になるのがベストであり、無理やり増やすものではないと考えています。そして、よく聴く言葉は「女性ならではの観点」です。土木という業界は性差による観点が反映されにくい業界であり、全ては技術力で決まると思っています。それは、私がまだこの業界を熟知できていない若輩者だからかもしれませんが、少なくとも私が民間企業にいたのなら、技術力で勝負したいと思っています。学生も女子だからと言って特別視してほしいわけではなく、自分が学びたいから学んでいるのであって、勉強をする環境も内容も男子学生と何ら変わりません。研究室生活も男子学生と一緒にあり、その様な生活を送ってきたにも関わらず、就活の面接で「女性として」云々といった質問や、会社に入ってから期待をされても、無理な話では？と、思っています。その反面、普段の行動や考え方に女性ならではの観点が含まれている可能性もゼロではないと思っています。今は私自身が気付いていませんが、いつか「その考え方は女性らしいね」と言われたらその言葉を受け入れ、良いことはどんどん取り入れていきたいと思っています。

最後になりますが、この業界が女性の職業として普通に選択肢に入る時代が来ることを願っています。そのためにも、大学教員として、若者たちに土木や地盤工学の重要性や魅力を伝えていく活動に、出来る限り尽力したいと思っています。

(原稿受理 2015.2.19)

HP21